

れいわ ねん ど
令和2年度

だい かいこ さいし た ぶん かきょうせいしやかいすいしんきょうぎかいかい ぎ ろく
第3回湖西市多文化共生社会推進協議会会議録

きろくしゃ しみん か こばやし
記録者 市民課 小林

- ▶ 日 時：令和3年1月22日(金) 13時30分～15時00分
- ▶ 場 所：湖西市健康福祉センターおぼと 研修室
- ▶ 出席者：名和聖高、星川弘任、田代瑠璃、ホセ カルロス、末吉由佳、坂本健三、
中村哲也、二橋和久、猪井英典、宮崎幸治、宮下智亘
- 事務局：市民安全部長、市民課（課長、課長代理兼係長、主任）
- ▶ 資料：次第
【資料1】第3次湖西市多文化共生推進プラン2021～2025（案）

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題

(1) 第3次湖西市多文化共生推進プラン最終案について（資料1）

◆事務局説明

資料1説明により、第3次湖西市多文化共生推進プラン最終案説明。

◆協議会委員の意見・質問

<第1章 計画策定の概要>

(会長)

2 ページにおいて「外国人市民」の概念を明確に記載したのは、今回特徴的などころではないか。

(事務局)

今回から明確に記載をすることとした。

<第2章 湖西市の現状と課題>

(会長)

18 ページの「外国人市民に親しみを感じる日本人市民の割合」について、「親しみを感じる」割合が前回と比較して少なくなっているが、「親しみを感じない」割合は、数値として減っている。この現象をどのように捉えているか。

(事務局)

統計的に有意な違いとまでは捉えていない。

(会長)

この後の第3章の施策の実施を通じて、このあたりの改善を図ることが必要になってくる。

(委員)

あけぼの自治会では、外国人の居住率が急に伸びているということで、前回の委員会で地区別の外国人の居住状況を把握できないかという話があったが、6 ページに自治会別状況があり、理解できた。

(事務局)

(前回プラン策定時と比較して)表 鷺津自治会、鷺津自治会以外の地域にも外国人の居住が広がっているのが、表れていると捉えている。

<第3章 施策の内容>

(委員)

前回プランでは写真が入っていたが、最終的には掲載されるか。

(事務局)

イラストを使って親しみやすくなるようにしていきたい。

(委員)

これから外国人労働者が増えていく中で日本語のレベルアップが必要とされている。10 ページのアンケート結果では、9.9%の方が「日本語検定試験に合格したい」と回答している。これまでの、日本語教育に加えて、N2、N3 を目指すような日本語学習機会の提供が必要ではないか。

(事務局)

日本語教室の展開を考える際、レベルや対象者をどうするか、また、それを市が実施するのか、他の主体が実施するのかななどを整理しないといけない。25 ページの事業

施策No. 11 において「日本語教育の推進に係る体制の整備」に掲載したように体制整備の検討をこれからしなければならぬ。そのため、プラン策定の段階で、「日本語検定試験合格を目指す」というような具体的な内容は掲載しないように作成した。

なお、県が出している静岡県地域日本語教育方針においては、定住外国人に対し基礎的なレベルの日本語学習機会を提供することが示されている。

(会長)

基本的には、プラン実施の段階で取り組んでいくという理解でよろしいか。

(事務局)

その通り。

(委員)

今回のプランでは「外国人市民」を多く使っているが、26 ページでは「外国人の子ども」という記載が多い。あえて使っているのか。

(会長)

「外国人」が適切な場合もあるし、「外国人市民」で良いところもある。それについては、文言調整をする際に検討させていただくということによろしいか。

<第4章 計画の推進>

(委員)

40 ページの推進体制において「湖西国際交流協会」と具体的に示されている。今後とも連携をしていきたい。

<全体について>

(会長)

- ・ 文言については、改めて精査をしなければいけない。
- ・ 今日ご提示いただいたご意見、また、パブリックコメントで出されたご意見については、会長と事務局で審議を行い、その過程で委員の皆様にご審議いただく内容が出た場合には、第4回目の協議会を開催しご協議をお願いさせていただく。
- ・ この場で気が付かなかった問題があれば、1月末を目途に事務局へご提出をお願いする。

以上